

課題名：担い手の育成と確保

指導対象：新規就農者、4Hクラブ、次世代人材投資事業交付対象者

1. 取組の背景

これまで、高品質な農産物の安定生産の推進や新規就農者の育成など担い手の確保に取り組んできたが、依然として農業従事者の減少、高齢化の進展、後継者不足、耕作放棄地の増加など生産・労力基盤の減退などの問題に直面している。一方、大都市近郊に隣接している当管内では、新たに農業に参入する人もいるが、住居の確保や理想としている農業とのギャップに苛まれ止むを得ず離農する人もいる。

このことから、就農を希望する方に対し管内における営農実態への理解を図り、住居等を始めた受け皿体制の整備を図っていく。併せて、就農を始めた人に対する技術習得や仲間づくりを通じて新規就農者など農業の担い手の確保・育成に取り組む。

2. 活動内容

(1) 受入協議会設立・運営指導支援

新規就農者の受入体制を整備し、就農ビジョンの提案や支援策の情報発信などに取り組むことを目的とした受入協議会の設立に向け、紀の川市、紀の里農業協同組合、紀ノ川農業協同組合、生産者団体など関係機関との検討会を開催した。

(2) 受入基盤の整備

受入協議会の研修メニューや就農ビジョンの策定など、今年度の事業計画について、関係機関と検討会を開催した。

また、「匠の技 伝道師」の認定についても1名認定し、現地での研修会を開催した。

(3) 新規就農者の定着とステップアップ支援

アグリビギナー研修会の開催

- 第1回研修会：令和3年12月7日(火)、「鳥獣害対策について」「農業者年金について」
- 第2回研修会：令和4年1月25日(火)、「簿記記帳及び税務の基本的な事柄の習得」
- 他、スマート農業フェア、スマート農業実践塾（県主催）への参加案内



アグリビギナー研修会の様子

3. 具体的な成果

(1) 受入協議会設立・運営指導支援

設立に向けた検討会を重ねた結果、4月12日にあら川の桃受入協議会、6月4日に紀の川市新規就農者受入協議会を設立し、新規就農者の受入体制が整った。

6月からあら川の桃受入協議会で1名（モモ）、10月から紀の川市新規就農者受入協議会で1名（イチゴ）を受け入れ、研修を開始した。

（2）受入基盤の整備

紀の川市新規就農者受入協議会の新たな研修生の受入先として、8月5日に紀ノ川農協トレーニングファームが参画した。その研修機会に合わせて研修メニューの追加による受入可能品目が増え、新規就農者への受入体制が強化された。また、令和4年度からはJA紀の里あら川のモモ部会トレーニングファーム受入協議会にも参画予定となっている。

（3）新規就農者の定着とステップアップ支援

アグリビギナー研修会の開催

【出席者】第1回研修会：5名 第2回研修会：コロナ感染症増加のため中止

4. 農家等からの評価・コメント（紀の川市農林振興課・担当者）

○ 受入協議会設立・運営指導支援

紀の川市では、振興局やJA等の協力のもと、新規就農者受入協議会を設立し、令和3年9月から紀の川アグリカレッジを開始し、令和4年6月から研修生4組5名を受け入れ開講する。振興局、JA紀の里、紀の川農協と連携しながら、新規就農者の円滑な就農希望者への支援を進めていきたい。

5. 普及指導員のコメント（那賀振興局農業水産振興課・主査・奥野 直行）

○ 受入協議会設立・運営指導支援

紀の川市における新規就農者の受入体制整備について、紀の川市新規就農者受入協議会へJA紀の里トレーニングファームと紀ノ川農協トレーニングファームが参画することで、受け入れ品目の幅が拡がり、また、研修を希望する場合、窓口が一本化されたことで、研修希望者がスムーズに相談できるようになった。

次年度以降、受入協議会における研修生の受け入れが増加する見込みであるため、振興局としても協議会の運営を支援していく。

6. 現状・今後の展開等

（1）受入協議会設立・運営指導支援

協議会への研修生の受入や就農に向けたサポートなどの運営支援を行う

また、紀の川市新規就農者受入協議会では、国庫事業〔地方創生推進交付金〕を活用し、「紀の川アグリカレッジ（イチゴに特化した新規就農者の研修サポート）」をR4.6月に開講するため、研修内容の検討や運営支援を行う。

（2）受入基盤の整備

令和4年度から紀の川市新規就農者受入協議会へJA紀の里あら川のモモ部会トレーニングファームがスムーズに参画できるように、就農ビジョンや研修メニュー、受入体制の調整などの運営支援を行う。

（3）新規就農者の定着とステップアップ支援

今後も新規就農者のニーズに合わせた研修会等を開催し、新規就農者に対する支援を行う。